

# 高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20  
 高知県地域福祉部障害保健支援課内  
 高知県精神保健福祉協会  
 電話：088(823)1111・088(823)9669(直)  
 FAX：088(823)9260  
 E-mail：kochi-mhwa@mopera.net  
 発行人 明神 和弘 編集人 谷 晃

## 第269号

### 第58回高知県精神保健福祉大会

# 地域で支える子どもの育ち

## ～高知家の発達障害支援の課題～



大会実行委員長  
**岡田 和史**

精神科医療の分野において、2000年代に入ってから急速に注目が高まるとともに社会の要請も増してきた分野が児童・思春期年代を対象とする分野です。

そしてその中でも特に発達障害に関連した問題が大変大きな問題となっております。

私が研修医となった30年前は、発達障害という言葉はまだあまり使われておらず、大部分の精神科医にとっては「自閉症って名前は知ってるけど診たことないなあ」「非常に珍しい特殊な病態でしょう？」といった存在で、精神医学の中でもかなりマイナーな分野が児童精神医学という領域でした。それがここ20年の間に大きな変化が起こり、非常に注目される分野となってきたのです。

さて、このような状況の中で今回の第58回大会では、発達障害の問題を中心に、高知家の子どもの育ちをどのように支えてゆけば良いのかを考えることになりました。

発達障害支援には、20年前に比べると診断の範囲が一気に拡大したこと、本県に限らず専門医や専門の支援機関が少ないこと、家庭の養育力の低下（長時

間労働や核家族化の影響、地域の間人関係の希薄化）などが大きな問題点として挙げられるでしょう。

これらの問題点に高知家としてはどのように立ち向かっていけばよいのか、貴重な御助言をいただける方として、講師としてNPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長であり、前三重県立小児心療センターあすなろ学園園長である西田寿美先生をお招きすることとなりました。先生は三重県において、40年以上にわたり、自閉症や不登校などの子どもたちの診療に携わってこられました。このように長い年月にわたって一つの県で一貫して子どもたちの診療に尽力されたという経歴は大変稀有な存在と言えます。先生は三重県全体の児童精神科医療の在り方、子育て支援の在り方について、ずっと考え続け実行してこられた方ですから、現在高知県が直面している課題を、はるかに先行して経験され、対応されてきておられます。そのような我々の大先輩ならではの大変豊かで充実した本物のお話が聞けるものと確信しております。

またシンポジストとして、高知県内の現場で実際に支援にかかわっている、まさに前線で現在進行形で活動されている方々をお招きしています。今大会が高知家の子育て支援の課題についてより深く考え、より良い方策を考える一助となることを願っております。  
 （海辺の杜ホスピタル 院長）

### 目次

第58回精神保健福祉大会(案内) .....	1	認知症ちえのわnet .....	4
現代における森田療法 .....	2	りんく・じょいの納涼祭 .....	5
森田正馬没後80年墓前祭 & 記念講演会 .....	3	第58回高知県精神保健福祉大会(プログラム) .....	6

## 現代における森田療法

医療法人社団形外会 三島森田病院  
理事長 森田 正哉

去る平成30年7月15日、森田正馬の没後80年墓前祭及び記念講演会が行われた。会場に集まっていた多くの方々とともに、高知のもつ風土が正馬の軌跡に与えた影響を共有することができたのは大変感慨深いことであり、正馬自身もさぞ喜んでいることと思われる。高知県の精神医療に携わる方々、足を運んでいただいた方々に、親族を代表して御礼申し上げる。



森田 正哉 氏

昭和34年、森田正馬から精神療法を受け継いだ森田秀俊が三島森田病院を開院し、森田療法を実施してきた。逝去に伴い深澤裕紀・現院長が就任し、よりブラッシュアップされた院内体制の確立が行われた。当院は急性期・慢性期閉鎖病棟、開放病棟を有し、一般的な精神科治療に加え、神経症治療として入院森田療法の実施と外来治療を行っている。当院の特色は、医療者の多くが森田療法のもつ基本理念を習得しており、外来・入院いずれの治療においても森田療法的なエッセンスを内包しているところにある。職員はもちろん、患者自身も森田療法を体現しながら日常生活を送り、社会復帰を行っている。精神科デイケアには多岐に渡る疾患の方が来られるが、森田療法を含む精神療法の講義を行うことで理解を深め、精神科訪問看護と併せて利用することで、退院後の支援に注力している。

森田正馬は大正8年に森田療法を創始し、当

時治療困難であった神経症治療に先鞭をつけた。今でいうパニック症、社交不安症、全般性不安症、強迫症に効果を挙げ、その治療概念は広く国内に浸透した。神経症で苦悩する人々の間では光明を得たことだろう。しかし現代において、森田療法がどのような役割を果たしているのか、改めて考えてみたい。奇しくも正馬と同じ道に進んだ私であるが、精神科医療界隈を俯瞰してみるとむしろ神経症治療はやや後退しているような印象を受ける。神経症治療においては、薬物療法に加え精神療法の併用が有効であるとされている。正馬の居た時代から時は進み、森田療法だけではなく認知行動療法・マインドフルネス・ACTなど、世界的にも神経症に有用な精神療法が開発され、発展した。しかし一般的な神経症治療の際に、未だに薬物療法のみを用いる治療が広く行われているのが現状のように思う。若手医師のトレーニングとして精神療法に重点を置かれていないことがそういった状況を生み出していると思われるが、裏を返せば、我が国の神経症治療全体のボトムアップを図る余地が大いにあるということである。そのためにも改めて、森田療法のもつ有用性を確立する試みが必要である。

まず、医療従事者のなかでも未だに「森田療法＝絶対臥褥」のイメージが強く、森田療法の本質を失っている印象を受ける。森田療法は特別かつ重々しい入院治療である、という誤った認識が先行しているようだが、今日において森田療法を行っている



三島森田病院（静岡県三島市）

多くの医療者は外来での森田療法の施行が主であり、それは短時間でも可能な技法である。森田療法を体得すれば、どの診療においても簡便に用いることができる。医療者と患者が、不安の扱いをどのようにするか、そして患者の心の奥底にみられる欲求に焦点を当てることで、「自分らしく生きる」ことを体現することこそが森田療法の本質だからである。

そして、他の精神療法と比べ臨床研究が乏しいことも今後の発展性を残している点といえる。コクランレビューにおける森田療法の扱いは、「中国での小規模な臨床研究しかなく正確性に欠けている」というものであり、エビデンスの質の低さが指摘されている。他の精神療法で改善しなかった患者が森田療法を行うことで劇的に改善する例は珍しくない。しかしエビデンス重視の現代医療においては、臨床研究を行わなければ国際的には認められない。100年近い歴史をもつ精神療法でありながら、現代的な研究はほぼ行われていないに等しいため、研究としても大変面白い結果が得られる可能性を秘めている。森田療法のもつエッセンスが医療者と患者の間で当然のこととして普及し、不安にとらわれて困っている多くの方が救われることを目指し、今後も尽力していきたい。

**三島森田病院ホームページ**

<http://www.mishimamorita.jp/index.html>



三島森田病院 正馬資料室

**森田正馬先生没後80年墓前祭**

平成30年 7月15日(日)

のいちふれあいセンター (香南市)



**森田正馬没後80年記念講演会  
「こころの健康法・生き方の手引き」**

高知県民文化ホール (オレンジ)

開会あいさつ



# 認知症ちえのわnet を紹介します。

<http://chienowa-net.com/>



研究代表者：高知大学医学部神経精神科学講座 教授 数井 裕光

The screenshot displays the Chienowa website interface. At the top, there is a search bar with 1,137 items and a search button. Navigation tabs for 'ケア体験の投稿' and 'ケア体験の一覧' are visible. A central banner explains the site's purpose: to collect and share care experiences for dementia, with a current user count of 1,017. Below this, a grid of buttons allows users to view aggregated data for various symptoms like '物忘れ' (forgetfulness), '幻覚・妄想' (hallucinations/delusions), and '怒りっぽい・興奮・暴力' (irritability/agitation/violence). The '新着のケア体験' (New Care Experiences) section lists recent user-submitted stories, such as 'カーツとなって怒ることが度々ある。' (I often get angry as if I were a car). A '最新ニュース' (Latest News) section features articles from Chikuni University and local media. At the bottom, there is a 'メールマガジン' (Email Magazine) section with recent issues.

# 「りんく・じょいの納涼祭 —高知で一番小さな音楽祭—」のご報告

社会福祉法人さんかく広場

就労障がい者交流拠点事業「りんく・じょい」 担当 伊藤 英助

「りんく・じょい」は社会福祉法人さんかく広場が、高知県からの委託を受け2015年に開始した就労障がい者交流拠点事業。働く精神障害者に「愚痴をこぼせる」場や夕食の場、ファッション・メイクアップをはじめ様々な「生活を楽しむ技術」を習得する場を提供している。第14回精神障害者自立支援活動賞（リリー賞）受賞。活動の企画や運営にあたるのは、地域の人や当事者も含めた「りんく・じょい助っ人会」。

去る9/1(土)4回目となった「りんく・じょいの納涼祭」を開きました。

当日はあいにくの雨・雨・雨。最初に予定していた8/25も雨…

助っ人さんと準備の打ち合わせの冒頭「伊藤さんって雨人間？」ってdisられてしまいました。(雨人間って…)

天気予報を信じて準備を開始。テントを張って屋台の準備がほぼ完了したとた



納涼祭の打ち合わせ

ん雨脚が強くなりだし、再びみんなの冷たい視線を感じつつこれじゃまずいということで開会2時間前になって急遽会場レイアウトを変更そよかぜとサンセットカフェの2会場に分けて開催することに決定。決めたら早いのがりんく・じょいの助っ人



納涼祭の様子

会。当事者のみんなはもちろん小学生から80歳のおんちゃんまで総がかりでわずか30分余りで変更完了。予定時刻の開催にこぎつけました。

助っ人会で作ったバンド「スリースマイルズ」の演奏に始

まり、「しまじゅん」の歌姫2人の歌とアコーディオン、不良後期高齢者こと「おやじ」さんのボン

ゴ教室。夜店のスペースでは地域の小さなお友達が子供助っ人のお手伝い希望でいっぱい。そうだよ。お祭りって作るのも楽しいもんね。おんちゃんまさか助っ人券が足りなくなるとは思わなかったよ。うれしい悲鳴だけどね。



昼「サンカフェ」 夕「サンセットカフェ」

楽しい時間は短いもの。あっという間に終わりの時間。最後はいつもの高知で一番小さな花火大会。吹上花火に始まり線香花火で締めました。

助っ人会のみなさんをはじめ当日飛び入り参加の助っ人さん子供助っ人のみんな、出店してくれた作業所のみなさん協力団体のみなさんそのほか陰に日向に協力して下さった多くのみなさん。本当にありがとうございます。お疲れ様。

またやろうね！



納涼祭の様子

第58回高知県精神保健福祉大会

# 地域で支える子どもの育ち ～高知家の発達障害支援の課題～

**入場無料**

**講演タイトル**

## 「発達障害児への 地域子育て支援」

近年、核家族化と少子化時代の子育て支援は、国や地域行政の火急の課題となっている。

文科省の教育現場における「気になる子」の更なる増加報告、豊田市子どもセンターによる小学6年生の3.91%が自閉症スペクトラム(ASD)との診断報告、更に子ども虐待の増加等、子どもの育ち環境の課題の多さが問題となっている。あすなる学園は三重県の地で「障害を持った人たちも地域で人として当たり前の生活がおくれること」を目標として56年前より児童精神科臨床に取り組み、地域における教育・福祉・保健・医療の協働による子育て・子育て支援体制制作りに関わり続けてきた。その渦中で42年間体験した子どもと家族の可塑性と関係機関連携の重要性について報告したい。

**講師**

NPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長  
前三重県立小児(こども)心療センター  
あすなる学園園長

にしだ ひさみ  
**西田 寿美**



**経歴**

- 1973年：三重県立大学医学部卒業、三重大学医学部精神科医局入局
  - 1974年：三重県立高茶屋病院勤務、あすなる学園での児童精神科臨床に従事
  - 1985年：分離独立した県立小児心療センターあすなる学園に勤務
  - 1994年～2013年：日本児童青年精神医学会評議員
  - 2001年～2015年：県立小児心療センターあすなる学園園長
  - 2006年～2013年：日本児童青年精神医学会理事
  - 2010年：みえ不登校支援ネットワーク代表
  - 2015年：NPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長
  - 2017年7月：社会福祉法人おおすぎ「れんげの里診療所」所長  
：三重いのちの電話理事
- 専門は児童精神科

**日時** 2018年10月24日(水)

午後 1:00～4:30

**場所** 高知県民文化ホール(グリーン)

**プログラム**

- PM 1:00 開会あいさつ 高知県精神保健福祉協会会長 明神 和弘  
来賓あいさつ 高知県知事 尾崎 正直  
高知市長 岡崎 誠也  
高知県医師会会長 岡林 弘毅
- PM 1:20 表彰式
- PM 1:30 …… 休 憩 ……
- PM 1:35 アトラクション 愛幸病院
- PM 1:45 …… 休 憩 ……
- PM 1:50 講演「発達障害児への地域子育て支援」  
講師 NPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長  
前三重県立小児(こども)心療センターあすなる学園園長 西田 寿美
- PM 3:00 …… 休 憩 ……
- PM 3:10 シンポジウム「高知県の現状と課題」  
シンポジスト  
高知県立療育福祉センター副センター長  
高知ギルバーク発達神経精神医学センター所長 北添 紀子  
高知市こども未来部子ども育成課子ども発達支援担当係長 藤宗美千子  
香南市健康対策課保健師 岡崎 直子  
助言者 NPOライフ・ステージ・サポートみえ理事長  
前三重県立小児(こども)心療センターあすなる学園園長 西田 寿美  
座長 医療法人精華園海辺の杜ホスピタル院長 岡田 和史
- PM 4:25 閉会あいさつ 高知県精神保健福祉協会 副会長 橋詰 宏

**【主催】** 高知県精神保健福祉協会

**【事務局】** 高知県精神保健福祉協会 高知市丸ノ内1-2-20

高知県地域福祉部障害保健支援課内 TEL 088 (823) 9669

精神科医療の  
真のパートナーを  
目指して

**吉富薬品株式会社**  
大阪市中央区北浜 2-6-18  
<http://www.yoshitomi.jp/>

命のために、  
できること  
すべてを。

大日本住友製薬  
Innovation today, healthier tomorrows